

## 第14節 特別活動

### 第1 本資料の活用について

#### 1 作成の基本的な考え方

本資料は、改訂された小学校学習指導要領の特別活動の目標及び各活動、学校行事の目標の実現を目指した指導計画及び評価計画作成のための資料となるように作成したものである。そのために、学習指導要領及び埼玉県小学校教育課程編成要領の趣旨を踏まえて具現化するように努めた。

作成に当たっては、具体的な事例を取り上げながら、特別活動における重要な三つの視点や育成を目指す資質・能力を踏まえた指導の在り方や評価方法、評価規準例を示した。

#### 2 取り上げた内容

##### 第1 本資料の活用について

##### 第2 特別活動における指導と評価

- 1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について
- 2 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について
- 3 観点別学習状況の評価の観点について
  - (1) 特別活動における評価の考え方、留意点及び方法
  - (2) 特別活動の「評価の観点」とその趣旨、並びに「内容のまとまりごとの評価規準」作成の基本的な考え方

##### 第3 各活動・学校行事の指導と評価の計画及び改善

- 1 学級活動(1)
- 2 学級活動(2)、学級活動(3)
- 3 児童会活動
- 4 クラブ活動
- 5 学校行事

##### 第4 本時の指導計画例と評価及び改善の考え方

- 1 学級活動「(1) 学級や学校における生活づくりへの参画」
- 2 学級活動「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」
- 3 学級活動「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」

##### 第5 特別活動の評価と指導要録

- 1 特別活動における評価
- 2 評価のための資料の収集
- 3 評価補助簿の活用と指導要録の評価欄における記入について

#### 指導計画作成の留意事項

編成要領(編 P201)で示された「指導計画作成に当たっての留意すべき事項」との関連についても本資料で示していく。

- (1)「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた児童への指導」の視点
- (2)「主体的・対話的で深い学び」の視点
- (3)「教科等横断的」な視点
- (4)「社会に開かれた教育課程」の視点
- (5)「道徳教育の充実」の視点
- (6)内容の取扱いについての配慮事項

#### 3 本資料の活用に合わせて配慮すること

各学校は、学校の創意工夫を生かし、学校や地域の実態、児童の発達段階などを考慮するとともに、各教科等の指導との関連を図りながら、特別活動の各内容の特質を生かした指導計画及び評価計画を作成し、児童の自主的、実践的な活動が助長されるようにすることが大切である。

#### 4 学力・学習状況調査の活用(県学力・学習状況調査等の分析結果から見られた特別活動の効果)

埼玉県学力・学習状況調査の分析結果から、学級経営の充実が学力向上につながる事が明らかになった。特別活動は、学級活動を通して学級経営の充実を図り、学びに向かう集団の基盤を形成する。主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善を行う上で、特別活動の果たす役割は大きい。多様な集団活動を通してよりよい人間関係を築くことが、児童が安心して学習することのできる受容的な雰囲気醸成し、学力向上にもつながっていく。

## 第2 特別活動における指導と評価

### 1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について

特別活動では、指導する上での重要な視点として「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」を手掛かりとしながら、育成を目指す資質・能力や学習過程を整理した。また、評価の観点については、育成を目指す資質・能力の三つの柱や自校の実態を踏まえて、各学校で設定していくことになる。

<p><b>重要な三つの視点</b></p> <p><b>人間関係形成</b> 集団の中で、人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成する視点</p> <p><b>社会参画</b> よりよい学級・学校づくりなど、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとする視点</p> <p><b>自己実現</b> 集団の中で、現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする視点</p>	<p><b>資質・能力を育むためのポイント</b></p> <p><b>知識及び技能</b> 話し合いの進め方、よりよい合意形成や意思決定の方法、チームワークの重要性、集団活動における役割分担の方法等を実践活動や体験活動を通して体得できるようにする。</p> <p><b>思考力、判断力、表現力等</b> 児童が各教科等で学んだ知識等を関連付けながら、「問題の発見・確認→解決方法等の話し合い→解決方法の決定→決めたことの実践→振り返り→次の課題解決へ」といった一連の学習過程を積み重ねていくようにする。</p> <p><b>学びに向かう力、人間性等</b> 多様な他者との違いや多様性を認め、生かし合いながら協働して活動すること、自己の課題を発見し改善して、よりよい生き方を追求して活動すること等、自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを実生活に生かすようにする。</p>	<p><b>自校の実態</b></p> <p>各学校で特別活動の「評価の観点」とその趣旨を設定</p>
---	---	---

### 2 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について

特別活動における「主体的・対話的で深い学び」の実現に当たっては、各活動・学校行事の学習過程において、授業や指導の工夫改善を行うことが大切である。具体的には、学級や学校における諸問題や自己の生き方に関する課題を見いだしたり、解決方法を決めて自主的に実践したり、取組を振り返って、よい点や改善点に気付いたりして次の活動に生かしていくことができるような学習過程を大切にすることが、「主体的な学び」の実現につながる。また、課題を解決するために合意形成を図ったり、意思決定したりする中で、話し合いを通して他者の様々な意見に触れ、自分の考えを広げたり、多面的・多角的に考えたりすることが、「対話的な学び」の実現につながる。さらに、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせて、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画、自己の実現に向けた実践に結び付けることが、「深い学び」の実現につながる。

### 3 観点別学習状況の評価の観点について

#### (1) 特別活動における評価の考え方、留意点及び方法

##### ア 特別活動における評価の考え方

特別活動の評価においては、「集団活動」、「実践活動」、「自主的な活動」、「全ての教師がかかわる活動」であるという特質を踏まえ、児童一人一人のよさや可能性を認めるようにするとともに、自ら学び自ら考える力や、自らを律しつつ他人とともに協調できる豊かな人間性や社会性などの生きる力を育成するという視点から評価を進めていくことが大切である。その際、評価を通して教師が指導の過程や方法について振り返り、より効果的な指導につながるよう工夫改善を図っていく必要がある。

##### イ 評価に当たっての留意点

##### ① 評価体制の確立

特別活動には、児童会活動、クラブ活動、学校行事のように学級担任以外の教師が指導する内容がある。そこで、全教師が積極的に一人一人のよさや可能性を認め、指導に生かすなど、学校としての評価体制を確立することが大切である。

##### ② 指導と評価の計画の作成

評価と一体となった指導を継続し、成果を積み上げていくために、各活動・学校行事ごとの指導と評価を適切に位置付けた計画を作成することが重要である。1単位時間の指導計画においては、各活動・学校行事ごとに学校で設定した評価規準に即して「目指す児童の姿」を記載する。

### ③ 多面的、総合的な評価

活動の成果だけでなく、活動の過程における児童の努力や意欲などを積極的に認めていくことも大切である。その際、発達の段階や所属集団の状況に応じて評価方法を工夫し、一面的な捉え方にならないようにすることが大切である。

#### ウ 評価の進め方と方法

特別活動の評価は、ペーパーテストや成果物による評価ではなく、教師による観察法が中心となる。しかし、評価には客観性が求められることから一部の教師の主観による評価とならないよう評価を蓄積する必要がある。その際、以下の視点を参考に、教師による観察、児童の記録や作文などの活用、自己評価、集団の成員による相互評価、教師相互の話合いなど一層の工夫改善をすることが求められる。

- 評価の目的と対象の特定(何のために、何を評価するのか)
- 評価の方法と場面の設定(どのような方法、場面で評価するのか)
- 評価の実施者と実施時期(だれが、いつ評価するのか)
- 評価の結果の解釈と活用(どのように分析し、指導に役立てるのか)

#### (2) 特別活動の「評価の観点」とその趣旨、並びに「内容のまとめりごとの評価規準」作成の基本的な考え方

特別活動においては、特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、設置者ではなく、「各学校で評価の観点を定める」としている。ここでは、各学校において特別活動の観点とその趣旨、並びに評価規準を作成する際の参考となるよう、「評価の観点」とその趣旨並びに「内容のまとめりごとの評価規準」の作成の手順を示す。

基本的な手順として、まず、学習指導要領の特別活動の目標及び各学校の実態を踏まえて、特別活動の「評価の観点」を設定する。次に、「内容のまとめりごとの評価規準」を学習指導要領の「特別活動の目標」と初等中等教育局長通知（H31.3.29）（以下、改善等通知）を踏まえ、特別活動の特質に応じた形で作成する。

#### 【「内容のまとめりごとの評価規準」作成の基本的な手順】

- ① 学習指導要領の「特別活動の目標」と改善等通知を確認する。  
改善等通知では、次のように示されている。

(前略) 評価の観点については、小学校学習指導要領等に示す特別活動の目標を踏まえ、各学校において別紙4を参考に定める。その際、特別活動の特質や学校として重点化した内容を踏まえ、例えば「主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度」などのように、より具体的に定めることも考えられる。(後略)

- ② 学習指導要領の「特別活動の目標」と自校の実態を踏まえ、改善等通知の例示を参考に、特別活動の「評価の観点」とその趣旨を設定する。

- ③ 学習指導要領の「各活動・学校行事の目標」及び学習指導要領解説で例示した「各活動・学校行事における育成を目指す資質・能力」を参考に、各学校において育成を目指す資質・能力を重点化して設定する。

- ④ 観点ごとのポイントを踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

なお、小学校特別活動における内容のまとめりとは、以下のとおりである。

- 学級活動・・・(1) 学級や学校における生活づくりへの参画  
(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全  
(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
- 児童会活動  
クラブ活動
- 学校行事・・・(1) 儀式的行事、(2) 文化的行事、(3) 健康安全・体育的行事、  
(4) 遠足・集団宿泊的行事、(5) 勤労生産・奉仕的行事

各学校においては、「特別活動の目標」及び内容を踏まえ、自校の実態に即して、次に示す観点を参考に「評価の観点」を作成する。例のように、特別活動の特質や重点化した内容を踏まえて観点を作成することも考えられる。

【特別活動における「評価の観点」及びその趣旨をもとにした例】

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自分らしい生き方の実現に必要なことについて理解している。 よりよい生活を築くための話し合い活動の進め方や合意形成の回り方などの技能を身に付けている。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法について考え、話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。	生活や社会、人間関係をよりよく築くために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

【特別活動における資質・能力の視点（「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」）をもとに重点化を図った例】

集団や社会に参画するための知識・技能	協働してよりよい生活や人間関係を築くための思考・判断・表現	主体的に目標を立てて共によりよく生きようとする態度
多様な他者と協働し、集団の中で役割を果たすことの意義や、学級・学校生活を向上する上で必要となることを理解している。 よりよい生活づくりのための話し合いの進め方や合意形成の回り方などの技能を身に付けている。	多様な他者と協働して、よりよい生活や人間関係を築くために、集団や個の生活上の課題について話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりして実践している。	学級や学校の一員としてのこれまでの自分を振り返り、なりたい自分に向けて目標をもって努力し、他者と協働してよりよく生きていこうとしている。

【社会参画に重点化を図った例】

多様な他者と協働するために必要な知識・技能	集団や社会をよりよくするための思考・判断・表現	主体的に集団活動や生活をよりよくしようとする態度
学級・学校生活の充実のために主体的に参画することの意義や、そのための話し合いの進め方を理解している。 学級会等における合意形成の回り方などの技能を身に付けている。	学級・学校生活の充実・向上のために課題を考え、話し合い、集団としての解決方法を合意形成を図って決定したり、自分の実践目標を意思決定したりしている。	学級・学校の生活の改善・充実を図るために、多様な他者のよさを生かし、協働して実践しようとしている。 なりたい自分を目指し、これまでの自分を振り返り、これからの集団活動や生活に生かそうとしている。

小学校特別活動における「内容のまとめりごとの評価規準（例）」

【学級活動「(1) 学級や学校における生活づくりへの参画」の評価規準（例）】

〔第1学年及び第2学年の例〕

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
みんなで学級生活を楽しくするために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 話し合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聞き方を理解し、活動の方法を身に付けている。	学級生活を楽しくするために、問題を発見し、解決方法について話し合いの進め方に沿って合意形成を図り、仲よく助け合って実践している。	学級生活を楽しくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えをもち、役割を意識して集団活動に取り組もうとしている。

特別活動

〔第3学年及び第4学年の例〕

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
みんなで楽しい学級生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。意見の比べ方やまとめ方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しい学級生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について理由などを比べ合いながら合意形成を図り、協力し合って実践している。	楽しい学級生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えを生かし、役割を果たして集団活動に取り組もうとしている。

〔第5学年及び第6学年の例〕

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。合意形成の手順や深まりのある話合いの進め方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。

【学級活動「(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の評価規準 (例)】

〔第1学年及び第2学年の例〕

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
自己の身の回りの諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、基本的な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	自己の身の回りの諸課題を知り、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、進んで課題解決に取り組み、他者と仲よくしてよりよい人間関係を形成しようとしている。

〔第3学年及び第4学年の例〕

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、よりよい生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸課題に気づき、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、意欲的に課題解決に取り組み、他者と協力し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。

〔第5学年及び第6学年の例〕

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、健全な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸課題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自主的に課題解決に取り組み、他者と信頼し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。

**【学級活動「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」の評価規準 (例)】**

〔第1学年及び第2学年の例〕

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことの意義を理解し、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことについての課題を知り、解決方法などについて話し合い、自分に合った解決方法を意思決定して実践している。	現在及び将来にわたってよりよく生活するために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを生かし、他者と協働して、自己実現に向けて進んで行動しようとしている。

〔第3学年及び第4学年の例〕

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことの意義を理解し、将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことについて、よりよく生活するための課題に気づき、解決方法などについて話し合い、自分に合った解決方法を意思決定して実践している。	現在及び将来にわたってよりよく生きるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを生かし、他者と協働して、自己実現に向けて意欲的に行動しようとしている。

〔第5学年及び第6学年の例〕

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことの意義を理解し、自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことについて、よりよく生きるための課題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分に合った解決方法を意思決定して実践している。	現在及び将来にわたってよりよく生きるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを生かし、他者と協働して、自己実現に向けて自主的に行動しようとしている。

**【児童会活動の評価規準 (例)】**

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
楽しく豊かな学校生活をつくる児童会活動の意義について理解するとともに、活動の計画や運営の方法、異年齢集団による交流の仕方などを身に付けている。	児童会の一員として、学校生活の充実と向上を図るための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたり、人間関係をよりよく形成したりして主体的に実践している。	楽しく豊かな学校生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、多様な他者と互いのよさを生かして協働し、児童会の活動に積極的に取り組もうとしている。

**【クラブ活動の評価規準 (例)】**

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
同好の仲間で行う集団活動を通して興味・関心を追求することのよさや意義について理解するとともに、活動を計画する方法や創意工夫を生かした活動の進め方などを身に付けている。	クラブの一員として、よりよいクラブ活動にするために、諸問題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく形成したりしながら実践している。	共通の興味・関心を追求するために、見通しをもったり振り返ったりしながら、他者と協働し、自分のよさを生かしてクラブの活動に積極的に取り組もうとしている。

特別活動

**【学校行事（１）儀式的行事の評価規準（例）】**

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
儀式的行事の意義や、その場にふさわしい参加の仕方について理解し、厳粛な場におけるマナー等の規律、気品のある行動の仕方などを身に付けている。	学校や学年の一員として、よりよい学校生活にするために、新しい生活への希望をもって、集団の場において規則正しく行動している。	厳粛で清新な気分を味わい、儀式的行事を節目として、見通しをもったり振り返ったりしながら、これからの生活への希望や意欲を高め、儀式的行事に積極的に取り組もうとしている。

**【学校行事（２）文化的行事の評価規準（例）】**

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
文化的行事の意義や日ごろの学習成果を発表する方法、鑑賞の仕方について理解し、互いに発表したり、鑑賞し合ったりする活動に必要な知識や技能、マナーなどを身に付けている。	学校や学年の一員として、楽しく豊かな学校生活にするために、多様な文化や芸術について自他のよさについて考えたり、学習の成果を発表し合ったりして、互いのよさを認め合いながら実践している。	多様な文化や芸術に親しむとともに、自他のよさを見付け合い、自己を伸長し、見通しをもったり振り返ったりしながら、文化的行事に積極的に取り組もうとしている。

**【学校行事（３）健康安全・体育的行事の評価規準（例）】**

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等の非常時から身を守るなどについてその意義を理解し、必要な行動の仕方など身に付けている。また、体育的な集団活動の意義を理解し、規律ある集団行動の仕方などを身に付けている。	学校や学年の一員として、健全な生活にするために、自己の健康や安全についての課題や解決策について考えたり、運動することのよさについて考えたりし、適切に判断し実践している。	心身の健全な発達や健康の保持増進に努め安全に関心をもつとともに、運動に親しみ体力を向上するために、見通しをもったり振り返ったりしながら、健康安全・体育的行事に積極的に取り組もうとしている。

**【学校行事（４）遠足・集団宿泊的行事の評価規準（例）】**

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
遠足・集団宿泊的行事の意義や校外における集団生活の在り方、公衆道徳などについて理解し、必要な行動の仕方を身に付けている。	学校や学年の一員として、よりよい集団活動にするために、平素とは異なる生活環境の中での集団生活の在り方について考えたり、共に協力し合ったりしながら実践している。	日常とは異なる環境や集団生活において、自然や文化などに関心をもち、見通しをもったり振り返ったりしながら、遠足・集団宿泊的行事に積極的に取り組もうとしている。

**【学校行事（５）勤労生産・奉仕的行事の評価規準（例）】**

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
勤労や生産の喜び、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う意義について理解し、活動の仕方について必要な知識や技能を身に付けている。	学校や学年の一員として、よりよい学校・社会にするために、自他のよさを生かし、よりよい勤労や生産の在り方、働くことの意義や社会奉仕について考え、実践している。	学校や地域社会のために役立つことや働くこと、生産すること、他者に奉仕することに関心をもち、見通しをもったり振り返ったりしながら、勤労生産・奉仕的行事に積極的に取り組もうとしている。

### 第3 各活動・学校行事の指導と評価の計画及び改善

#### 1 学級活動(1)

学級活動(1)は、学級や学校における生活上の諸問題の解決や集会活動の計画、係活動の組織づくり、学校行事等における学級としての提案や取組などを、いわゆる「学級会」等で話し合い、合意形成を図り、実践する自発的、自治的な活動である。

##### ア 話し合い活動(学級会等)

学級活動において中心的な役割を果たす学級会は、学級や学校の生活をよりよくするための問題を学級全員で話し合う自発的、自治的な活動である。

##### 【1週間の指導計画例】

過程	活動	曜日	○計画委員会の活動 ●全員の活動	指導上の留意点
事前	議題の収集	金曜日	●学級の諸問題に気付き、議題カードを書いて提案する。 ・みんなでしてみたいこと 例：室内オリンピックをしよう ・学級生活がもっとよくなること 例：学級活動コーナーの使い方を考えよう ・みんなで作ってみたいこと 例：思い出かるたを作ろう ・学校行事等に関係すること 例：キャンプファイヤーの出し物を決めよう ・みんなにお願いしたいことや、みんなで解決したいこと 例：学級のボールの使い方の決まりを決めよう	・慣れるまでは、帰りの会など時間を決めて、みんなで議題案について考える場を設けることも考えられる。 ・議題ポストや提案コーナーなどを設置し、日頃から学級の諸問題を見付ける目を養えるような助言を行う。 ・議題が見付けられない場合には、教師が例を示したり、児童のつぶやきを議題として提案するように助言したりするなどの工夫をする。  P306 指導計画作成の配慮事項(1)
	議題の整理と選定	月曜日	○提案された議題を整理し、望ましい議題をいくつか選定して全員に知らせる。  《選定の視点》 ・学級の生活がよくなる問題か ・工夫できそうな問題か ・自分たちの力で解決できる問題か ・学級の全員に関係のある問題か ・今すぐ解決しなければならない問題か  ●全員で議題を決定する。 ○選ばれなかった議題について、提案者にありがとう(返事)カードを書く。	・児童に任せることができない条件を逸脱しないように留意する。 《児童に任せることができない条件》 ・個人情報やプライバシーの問題 ・相手を傷付けるような結果が予想される問題 ・教育課程の変更に関わる問題 ・校内のきまりや施設設備の利用の変更などに関わる問題 ・金銭の徴収に関わる問題 ・健康・安全に関わる問題  など  ・取り上げられなかった提案について、どのように取り扱うかを明らかにして提案者に伝える。
	計画	火・水曜日	○計画委員会で学級会の活動計画を立てる。 ○学級活動コーナーに掲示する。 (提案理由・めあて・話し合うこと・役割分担・決まっていること など) ○帰りの会などで、学級会ノートに全員に配付し、意見を記入することを伝える。 ●自分の考えを学級会ノートに書く。  ○必要に応じてアンケートや図、表などの準備をする。	・「決まっていること」を事前に知らせ、話し合う上での条件を明確にしておく。 ・議題によっては、「何をするか」について、事前に話し合っておく場合もある。  ・活動意欲をより高めるために学級会ノートに励ましの言葉を入れることも考えられる。 ・発達の段階により、提案理由等の具体的なイメージをつかむため、絵や写真等の準備を行うことも考えられる。
	本時	話し合い	木曜日	第◇回学級会 議題「○○○○○○」 ○計画に沿って学級会を進める。 ●互いの意見を生かしながら、合意形成を目指す。 ●決まったことを共通理解する。
事後	準備実践		●決まったことをもとに準備を進める。 ●実践をする。 ●事前一本時一事後の一連の活動の振り返りをする。	・全員が役割を担い、協力して活動できるようにする。 ・振り返った内容や次回への目標を教室内に掲示することによって意欲付けを図る。

##### 【話し合うこと設定上のポイント】

- ◎Why 「なぜ」…話し合いのよりどころとなる提案理由
- ◎When 「いつ」 Where 「どこで」…決まっていること(教師が決める条件)
- 話し合うこと① What 「何をするのか」(内容)
- 話し合うこと② How 「どのようにするのか」(工夫、約束、ルール等)
- 話し合うこと③ Who 「誰がやるか」(役割分担)

P306 指導計画作成の留意事項(2)

☆How 「どのようにするのか」を中心に話し合うことで、創意工夫を生かした話し合いになる。

特別活動



【合意形成のプロセスの例】

P306 指導計画作成の留意事項②

「合意形成」をするため、以下の視点で比較できるように支援する。

- ① 互いの意見を理解し合う。(共感的に理解)
- ② 何が違うのかを明確にする。(理由を明確にして比較)
- ③ 見方を変える。(視点を変えて比較)

<b>新しい考えをつくる</b> 「AとBの意見のよいところを生かして、Cという意見にしてはどうですか。」 など
<b>意見を合わせる</b> 「AとBの意見を合わせて、abの意見にしてはどうですか。」 など
<b>優先順位を決める</b> 「次は〇〇を行うことにして、今回は△△の意見に決めるのはどうですか。」 など
<b>付け足しをする</b> 「〇〇の意見に、△△ということをつけ加えるといいと思います。」 など
<b>条件を付ける</b> 「△△の内容が入れば、みんなで決めた条件に合うので、〇〇の意見がいいです。」 など
<b>少しずつ全部行う</b> 「Aの意見とBの意見について、時間を短くして両方行うことにしたらどうですか。」 など
<b>共感的に理解し、譲る</b> 「〇〇さんの思いはよくわかったので、今回は私の意見ではなくて〇〇さんの意見でいいです。」 など

【学級会の進め方】(高学年用)

- 起立、礼  
・これから第 回 学級会をはじめます。
  - クラスの歌を歌います。歌は( )です。元氣よく歌いましょう。  
・巻席
  - 計画委員の紹介をします。〈計画委員は自分のためでも発表する〉  
〈「司会」「記録」「黒板記録」の順に発表する。〉  
「(自分の役割)の( )です。今日は( )、」
  - 議題の確認をします。  
・今日の議題は( )です。
  - 提案理由の確認をします。( )さん、お願いします。  
・ありがとうございました。
  - 提案理由について何か質問はありますか。
  - 決まっていることの発表をノート記録の( )さんお願いします。  
・決まっていることは( )です。
  - めあての発表をします。  
・今日のめあては( )です。提案理由とともにこのめあてを中心に話し合いをしていきましょう。
  - 先生の話です。先生お願いします。〈必要な場合〉
  - ◎ それでは今日の話し合いに入ります。  
話し合うことは( )と( )です。  
はじめに( )について意見を発表してください。
  - 他に意見はありますか。(他の意見を発表してもらおう)
  - ◎ では、今までに(①・②・③・・・)のような意見が出ましたが、これらの意見に賛成、賛成、反対意見のある人は、発表してください。
- 「〇〇の意見については、賛成が多く提案理由に合っているので、決定していいですか。」  
「〇〇の意見をどのようにすれば、提案理由に近づきますか。」  
「〇〇の意見については、反対が出ていますが、条件を付けて△△ということではどうですか。」  
「〇〇と△△の意見を合わせて〇〇〇〇という考えはどうですか。」  
※できる限り、多くの人に発表してもらおう。  
※意見が分かれたときは、提案理由にもどって考えてもらう。
- 決まったことの確認をノート記録の( )さんお願いします。  
・今日決まったことは、( )です。
  - 今日の感想と実践に向けてがんばりたいことを書きましょう。
  - 今日の感想と実践に向けてがんばりたいことの発表をお願いします。  
誰か発表してくれませんか。
  - 先生の話です。先生お願いします。  
・ありがとうございました。
  - ◎ これで第 回 学級会をおわりにします。みんなで決めたことをみんなで実行していきます。

イ 係活動

係活動は、学級の児童が学級内の仕事を分担処理し、児童の力で学級生活を楽しく豊かにすることをねらいとしており、教師の適切な指導の下、児童が創意工夫して活動する自発的、自治的な活動である。

【係活動と当番活動】

係活動の組織づくりに当たっては、当番活動との特質の違いを十分に理解した上で行うようにする。

	係活動	当番活動
特質	集団生活の向上発展を目指す児童の自発的、自治的な活動	集団を維持し運営するための計画的な活動
活動内容	・学級の生活を楽しく豊かにするために、児童自身が生活の中から見つけ出し、創り出す活動。 ・児童が話し合いによって計画し、実施していく仕事で、創意工夫の余地が多い活動。〔例〕学級新聞係、誕生日係、レクリエーション係など	・よりよい学級の生活を送るために必要な仕事。 ・年間を通して仕事の内容や方法、時間などが決められていて、どのグループでも同じ成果が求められる活動。 〔例〕日直、給食当番、清掃当番、教科等当番など
設置分担	① あるとよいと思う係を学級会で話し合って決める。 ② 決まった係の分担を決める。 ③ 原則的に(入学当初以外)は、係グループは一定期間固定で行う。	① 学校の計画にしたがって、学級担任が中心となって決める。 ② 名簿や座席の順番等で決めることが多い。 ③ 全員が輪番制で行う。

【留意事項】

- ・教科に関する仕事や教師の仕事の一部を担うような活動にならないようにする。
- ・係ごとに競争意識を煽る評価の仕方ではなく、係ごとに活動の過程や成果を認め合い、学び合えるようにする。
- ・協力する過程を重視するとともに、自発的、自治的な活動になっているかどうか、工夫して活動できているかどうかを評価する。

P306 指導計画作成の配慮事項②

ウ 集会活動

集会活動は、活動のねらいを明確にした上で、学級生活をより楽しく豊かにするために、教師の適切な指導の下、学級の全児童によって行われる自発的、自治的な活動である。

【集会の例】

- ・ミニオリンピック集会
- ・縄跳び集会
- ・カルタ大会
- ・係活動発表会
- ・特技発表会
- ・福笑い集会
- ・どうぞよろしくの会
- ・〇〇さんのお別れ会
- ・〇年生がんばったね集会

集会のプログラム例

七	六	五	四	三	二	一	○
お	感	表	A	ク	は	司	組
わ	想	彰	↓	ラ	じ	会	特
り	発	式	B	ス	め	(	技
の	表		↓	の	の	)	発
言	演		C	言	言		表
葉			↓	葉	葉		会
			D				の
							程
							ラ
							ム

【留意事項】

- ・学級活動(1)の実践が集会活動ばかりにならないよう配慮する。
- ・体育系、文化系、レクリエーション系等集会の内容が偏ることのないようにバランスよく計画する。
- ・一連の活動を通して計画の立案や効果的な運営方法、協力や責任などについて体得できるようにする。
- ・一連の活動全体について振り返り、次回の活動の充実につなげる。

集会活動のねらいの達成状況や、児童自身の取組の姿勢等を振り返る機会を設けたり、活動の成果や課題等を感想として記録に残したりすることが有効である。

P306 指導計画作成の配慮事項⑤

## 2 学級活動(2)、学級活動(3)

学級活動(2)は、現在の自分の課題を見つめ、自己の成長のために、自分に合った具体的な解決方法や目標を意思決定し、主体的に実行することができるように自己指導能力を育てる。また、学級活動(3)は、現在及び将来にわたってよりよく生きるために、自分に合った目標や具体的な方法を意思決定し、なりたい自分を目指すことができるような自己実現を図る力を育成する。課題に違いはあるが、学習過程は同じである。また、特別活動はキャリア教育の要としての役割を担っているが、なかでも学級活動(3)においては、よさや可能性を生かしてなりたい自分に向けて努力することができるよう指導を工夫することが重要である。

### 【指導計画例】

	●教師の指導 ○児童の活動	指導上の留意点						
事前の指導	<p>●題材を設定する。 年間指導計画や児童の実態に合わせて、個々の児童が共通に解決すべき問題として「題材」を設定する。</p> <p>○問題を発見・確認する。 題材について知り、アンケートに回答したり自分の現状について考えたりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何が問題なのか、問題はどの程度なのか、どの問題を取り上げるかを明確にする。</li> <li>事前に題材を提示することで問題意識を高めるようにする。</li> <li>アンケートの内容は、指導内容をもとに教師が意図的に項目を設定し、必要に応じて自由記述を設定する。</li> <li>問題の原因や背景を明らかにする。</li> <li>児童の発達の段階に応じて可能な範囲で、資料作りや資料の説明等の自主的な活動を取り入れることも考えられる。</li> </ul>						
本時の指導	<p>●学級全員の共通の問題であることを押さえる。</p> <p>○解決方法等について話し合う。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">学級活動(2)</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">学級活動(3)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">【つかむ】 課題の把握</td> <td style="text-align: center;">【つかむ】 課題の把握</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">【さぐる】 原因の追求 必要性の実感</td> <td style="text-align: center;">【さぐる】 原因の追求 可能性への気付き</td> </tr> </table>	学級活動(2)	学級活動(3)	【つかむ】 課題の把握	【つかむ】 課題の把握	【さぐる】 原因の追求 必要性の実感	【さぐる】 原因の追求 可能性への気付き	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級全体として共通の問題を把握できるようにする。</li> <li>アンケート結果等から、学習することの意義に気付き、自分の課題を明確にできるようにする。</li> <li>アンケート結果を提示したり、インタビュー動画を視聴したりするなど、それぞれの段階において必要に応じて ICT を有効に活用することが考えられる。</li> <li>指導の効果を上げるために、内容に応じて、養護教諭や学校栄養職員等専門性の高い人材を T T 等で活用することも考えられる。</li> <li>解決したときの自分や学級の様子をイメージできるようにする。</li> </ul> <p style="text-align: center;">P306 指導計画作成の配慮事項(4)</p>
	学級活動(2)	学級活動(3)						
	【つかむ】 課題の把握	【つかむ】 課題の把握						
	【さぐる】 原因の追求 必要性の実感	【さぐる】 原因の追求 可能性への気付き						
<p>【見つける】 解決方法等の話し合い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の児童の生活経験や発想の違いを生かしながら解決方法を見付けられるようにする（集団思考を生かす）。</li> </ul>							
<p>○解決方法を決定する。</p> <p>【決める】 個人目標の意思決定</p> <p style="text-align: center;">P. 306 指導計画作成の 配慮事項(1)</p>	<p>必要に応じて、グループを意図的に編成し多様な視点で考えられるようにしたり、互いのよさを認め合いながらアドバイスをしたりするなどよりよい解決方法を考えられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>意思決定が難しい児童は、教師から示したり友達の見解（考え）を参考にしたりしながら、自分の考えるめあてについて自分自身で決めることができるようにする。</li> </ul>							
<p>○決めたことを実践する。 自分のめあてにそって、一定期間実践する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続した活動になるよう、日頃から声かけを行うなど個に応じた指導を行う。</li> <li>個々の努力を互いに認め合い励まし合う場を設定し、実践への意欲を高める。</li> <li>めあてを確認し、追加したり、修正したりする。</li> </ul>							
事後の指導	<p>●児童の活動の様子を見守りながら、励ましたり、めあてを修正するように助言したりする。</p> <p>○振り返る。 実践を定期的に振り返り、意識化を図るとともに、結果を分析し、次の課題解決に生かす。</p>	<p>以前の目標が消えないように、付箋等を用いて上に重ねていく工夫も考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個々の児童の取組から、学級全体の取組へと広げていく。</li> <li>必要に応じて、家庭との連携を図る。</li> <li>実践の振り返りから、実践の継続や新たな自分の課題の発見につなげられるよう声かけをする。</li> </ul>						

### 3 児童会活動

児童会活動は、異年齢集団の児童による自発的、自治的な活動を実質とする教育活動である。教師の適切な指導の下、児童の発意・発想に基づき、創意工夫を生かして活動計画を作成し、自主的、実践的な活動が展開できるようにすることが大切である。

#### (1) 1 単位時間の活動計画例（保健委員会）

日時	○月○日（木） 6時間目	活動場所	□年□組教室
内容	常時活動の振り返りと手洗いキャンペーンについて話し合う。		
めあて	全校児童が楽しんで手洗いに取り組める内容を考える。		
	活動の予定	時間	気を付けること
1	はじめのあいさつ・出席確認を行う。	5分	○明るく楽しい雰囲気を進める。
2	今日のめあてと活動予定を確認する。		○事前に担当の先生と打合せをしておき、進められるようにする。
3	常時活動の振り返りをする。 ・健康観察記録簿の転記 ・当番の確認 ・けが、病気の記録 ・石けん補充 等	10分	○よかったことや反省の発表を行う。 ○改善策などを出し合う。
4	工夫することを話し合う。 ・手洗いキャンペーンの実施方法について	20分	○みんなでアイデアを出し合う。 ○他の学年の児童の様子や意見も考えて決めていく。
5	活動を振り返る。 ・振り返りの発表		
6	次の活動を知り、計画を立てる。		
7	先生の話		
8	終わりのあいさつをする。		

代表委員会からの提案や学校行事等に関連する内容になることも考えられる。児童の創意工夫が生かされ、自主的、実践的な取組になるようにする。

#### (2) 評価例

児童会集会活動振り返りカード（高学年の例）

（ありがとう）集会 振り返りカード		6年 組 （ ）	活動の様子を評価規準に照らして評価する。児童の自己評価や振り返りは参考とし、次回以降の指導に生かすようにする。
集会のめあて	普段お世話になっている地域・保護者の方々を招いて感謝の気持ちを伝えよう		
	振り返ること	自己評価	
1	自分の役割は責任をもって果たせましたか。 <u>運動委員会で、花のアーチを作りました。大きく開くように気を付けて作りました。歌を歌うとき、感謝の気持ちを込めて笑顔で歌いました。</u>	◎ ○ △	【思・判・表】 どのように活動するとよいのか判断している記述があり、活動の様子からも招いた人のことを考えた言動等が見られたことから、十分満足できる活動の状況であると評価した。
2	友達と教え合ったりはげまし合ったりして協力しながら活動しましたか。 <u>友達に教えてもらって、作りました。</u>	◎ ○ △	
3	この集会でがんばったことや次の集会で生かしたいことなど、集会を振り返って感想を書きましょう。 <u>お客さんに喜んでもらえるように考えて作りました。お客さんが笑顔でありがとうと言っていたので、感謝の気持ちが伝わったと思います。友達とも協力して活動できたので、よい集会になったと思います。</u>		
4	一緒に活動した友達のよかったところはどこですか。 <u>〇〇さんが教えてくれて、手伝ってくれました。5年生も、教えてもらいながら集中して作っていました。</u>		

#### 【留意事項】

- ・カードの様式を学校で統一し、同じ項目で振り返ること、児童が振り返りやすくするとともに、教師が見取りやすくする。
- ・集会の役割分担によっては、委員会ごとに準備・活動することも考えられる。その場合、委員会担当教師が評価することになる。

（ありがとう）集会				
	知・技	思・判・表	態	
1	○○ ○○	○	○	
2	△△ △△		○	

#### 児童会活動における教師の補助簿例

児童のよさを積み重ねていくようにし、指導要録記載時の資料の一つにする。

令和○年度 6年 組 児童会活動評価カード										
	代表委員会			委員会			委員会			特記事項
	知・技	思・判・表	態	知・技	思・判・表	態	知・技	思・判・表	態	
1	○○ ○○			○○ ○○	○○ ○○		○○ ○○	○		ありがとう集会では相手のことを考え、感謝の気持ちを表そうと笑顔で歌っていた。
2	△△ △△					○	○	○		

#### 【留意事項】

- ・代表委員会及び委員会活動については、学級担任と担当する教師との連携を図る評価体制を確立する必要がある。

#### 4 クラブ活動

クラブ活動は、異年齢の児童による自発的、自治的な活動を通して、共通の興味・関心を追求する活動である。教師の適切な指導の下、児童が自分たちで計画したことを実現できた満足感や喜びを実感できるようにすることが大切である。

##### (1) 1単位時間の活動計画例（器楽クラブ）

日時	○月○日（木） 6時間目	活動場所	音楽室
内容	△△中学校吹奏楽部のみなさんに教えてもらって、「○○」を演奏する。		
めあて	中学生に教わりながら楽しんで「○○」の演奏をしよう！		
活動の予定		時間	気を付けること
1	はじめのあいさつ・出席確認を行う。	5分	○元気にいき全員のやる気を高める。
2	今日の活動予定の確認をする。 ・中学生の紹介	30分	○中学生にもあいさつをしてもらう。 ○グループのリーダーは中学生を案内する。
3	グループに分かれて活動する。 ・リーダーを中心にパート練習		○分がりにくいところ、難しいところを中心に、中学生に質問する。 ○グループ内で教え合って練習する。
4	全員で合奏する。	10分	○今日できるようになったところまでを合奏する。
5	活動を振り返る。 ・振り返りの発表 ・中学生へのお礼		○中学生にきちんと感謝の気持ちを伝える。
6	次の活動を知り、計画を立てる。		○パート練習をして、曲の最後まで合奏する。
7	先生の話		
8	片付け・おわりのあいさつをする。		○すばやく協力して行う。

##### 【留意事項】

- ・計画の作成に当たっては、主体的に活動できるように輪番制にすることも考えられる。
- ・次回の活動を知らせる方法として、活動計画をクラブ掲示板に貼ったり配付したりすることも考えられる。

##### (2) クラブ発表会の計画例

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年間の活動の成果を認め合えるようにする。</li> <li>・クラブ活動への関心・意欲を高め、次年度のクラブ選択の参考とする。</li> </ul>			3年生からの参加も考えられる。
日時・場所	2月27日（木）第5校時 体育館	参加対象	全児童	
準備・運営	代表委員会を中心に各クラブ長との連携			
内容	①はじめの言葉      ②代表委員のあいさつ      ③各クラブの発表 ④3年生の感想発表      ⑤校長先生のお話      ⑥おわりの言葉			
発表方法	・実演発表、映像を使つての発表、作品発表（ステージ） ・作品や活動資料の展示（体育館後ろや側面の壁等）・全クラブが出入りも含め5分以内で発表する。			
役割分担	・司会進行 ・プログラム ・放送 ・会場 ・記録 ・クラブ紹介ポスター作成 ・児童会だより発行			
その他	・ビデオ発表 2月4、5日の給食時間に放送 （1月のクラブ活動の時間に撮影）撮影計画は別紙にて ・展示発表 発表会翌日から、1週間展示 児童昇降口 各クラブで責任をもって、2月28日までに展示する。（3月6日に片付けを行う。）			

##### (3) 評価例

器楽クラブ評価補助簿 担当（ ）	学級担任ではなく、クラブ担当の教師が評価をしていく。		特に目立って活躍していたことについて記入しておき、指導要録記載時の資料の一つにする。				
	名前	観点	4/13	4/20	3/	年間	特記事項
4 の 1	○○ ○○	知・技 思・判・表 態				○	分からないことは進んで上級生に聞き、できるまで何度も繰り返し練習していた。
4 の	□□ □□	知・技 思・判・表				○	十分満足する姿であるときに○を付ける。毎時間全てを見取るのは難しいので、重点を絞る。また、適宜児童の振り返りカードも参考資料とする。

##### 【留意事項】

- ・各クラブの担当教師は、児童一人一人の活動の状況などを観察したり、振り返りカードなどを参考にしたりして評価補助簿を作成することが望ましい。また、クラブの時間が終了後、あるいは定期的に担当から学級担任へ児童一人一人の評価を伝えるなど、学級担任と連携を図っていくことが大切である。

## 5 学校行事

学校行事は、全校又は学年の児童で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養う活動である。学校行事は、学校が計画し実施するものであるが、活動の充実のために児童による自主的、実践的な活動が助長されるような計画を立てることが大切である。

### (1) 遠足・集団宿泊的行事「全校遠足」の指導計画例

- 1 学校教育目標との関連（本行事で育成を目指す児童像）  
「かしこく」（知）…全校遠足の意義やねらいを理解し、目標をもって主体的に参加できる子  
「やさしく」（徳）…異年齢集団での活動を通して、仲間と協力し、助け合うことができる子  
「たくましく」（体）…公共のマナーを守り、最後まで粘り強く取り組む子
- 2 ねらい  
○全校遠足を通して、異年齢集団による交流の仕方や安全な登下校の仕方、公衆道徳について理解し、行動できるようにする。【知・技】  
○異年齢集団活動における自己の役割や責任について考え、活動場面に応じて実践できるようにする。【思・判・表】  
○異年齢集団による交流を通して、下級生への思いやりの気持ちや上級生に対するあこがれの気持ちを持ち、よりよい学校生活を築いていこうとする態度を育てる。【態】

### 3 実施計画

(1) 期日 令和〇年4月28日(火) 3～5校時 (2) 場所 〇〇市〇〇公園 (3) 参加学年 全学年

#### (4) 役割分担

- ・関係機関との連絡調整…教務
- ・実地踏査…特別活動部の教師
- ・事前指導…各学級担任
- ・しおり作成…代表委員会
- ・当日のはじめ・おわりの集いの司会進行…代表委員会

### 4 参加意欲を高める指導と評価の流れ

#### (1) 事前指導

##### ①代表委員会

- ・代表委員会で全校遠足の意義や目的を確認する。
- ・代表委員会でめあてや計画について話し合い、しおりを作成し各クラスに配付する。
- ・当日の集いの進行について役割を確認しておく。

##### ②各学級

- ・業前活動の「学級の時間」を複数回活用し、各異年齢集団の顔合わせやしおりを活用してのねらいや持ち物等の確認、めあてカードの記入を行う。

##### ③6年生

- ・6年生は休み時間等を利用し、色別集会やグループ遊びの準備をしておく。

#### (2) 展開

活動の流れ	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】(評価方法)
1 はじめの集い(校庭) 2 移動(徒歩) 3 色別集会 (リーダー紹介・簡単なゲーム等) 4 昼食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表委員会で進行を行う。</li> <li>・クラス数が多い場合は、ルートを複数決め、安全かつ円滑に移動できるように、学校応援団等に児童の安全確保のための見守りをお願いしておく。</li> <li>・昼食時のおやつ交換は食物アレルギーのある児童もいるのでしないように再度注意を呼びかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎安全面や公衆道徳について理解し、行動の仕方を身に付けている。</li> <li>【知・技】(観察)</li> <li>◎自己の責任や役割について考え、活動場面に応じて実践している。【思・判・表】(観察)</li> </ul>
5 オリエンテーリング ※ 終わったグループはグループ遊び 6 おわりの集い 7 移動 8 学校到着・下校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーリングは異年齢集団ごとに公園を散策し、与えられた課題を協力して達成し全員でゴールまでたどり着けるようにする。</li> <li>・学校に戻る前に、ゴミ等が落ちていないかグループで再度確認をする。</li> <li>・各クラスで到着人数を確認し、下校する。</li> </ul>	

#### (3) 事後指導

- ・めあてカードの振り返りから、本活動の成果と課題を明らかにし、今後の学校行事における異年齢集団の取組や業前活動等の色別遊びの時間の充実に生かすことができるようにする。(各学級)
- ※活動の様子や児童のめあてカードを参考に、評価補助簿に評価を記入し、積み重ねていく。

### 5 評価規準(略)

## (2) 評価例

### 学校行事めあてカード

**全校遠足 (学校行事) めあてカード (高学年)**

全校遠足の目標 (学年 (学級) 全体の目標)

- 全校遠足を通して、自分の役割や責任について考えながら行動し、下級生のお手本となるようにしよう。
- 行き帰りの安全に気を付け、他の人の迷惑にならないような行動を心がけよう。

全校遠足で大切なことは？

- ・6年生として、下級生から頼りにされるような行動をすること
- ・仲間との協力

自分のめあて (○○小学校の6年生として)

- ・オリエンテーリングやグループ遊びのとき、下級生が困っていたら、すぐに声をかけ、手助けできるようにする。

全校遠足をふり返ろう

① 目標に対して、達成できたことやがんばったことは何ですか。

オリエンテーリングでは、班全員で校歌を歌うクイズがあり、1年生がまだ校歌をよくおぼえていないみたいだったので、一緒に大きな声で歌って、合格ができたこと。

② どんなことが心に残りましたか。

歩いて帰るときに、一年生の●●さんのリュックが重そうだったので、持ってあげたら、●●さんが「ありがとう。」と言ってくれたこと。

③ これからの学校生活にどう生かしていこうと思いますか。

クラスでも、困っていたり悩んでいたりする友達がいたら、自分から声をかけてあげたいと思った。

事前指導の中で、学校行事の目標を達成するために、①自分が大切にしたいことを考え、②それが具現化されるような具体的な行動目標 (めあて) を設定する。

事後指導の中で、具体的な場面を想起しながら活動を振り返るようにする。

特に、学校行事を通して学んだことをどう学校生活に生かしていくかという視点は、学校生活の充実・向上にとって大切である。

P306 指導計画作成の留意事項(2)

自己評価の他に、児童同士の相互評価を取り入れることも考えられる。

### 教師による活動記録

学校行事活動記録

行事名	全校遠足	実施日	4月28日(火)
遠足・集団宿泊的行事で育成を目指す資質・能力	知遠足・集団宿泊的行事の意義や校外における集団生活の在り方、公衆道徳などについて理解し、必要な行動の仕方を身に付けている		
	図学校や学年の一員として、よりよい集団活動するために、平素とは異なる生活環境の中での集団生活の在り方について考えたり、共に協力し合ったりしながら実践している。		
	日常生活とは異なる環境や集団生活において、自然や文化などに興味をもち、見通しをもって振り返ったりしながら、遠足・集団宿泊的行事に積極的に取り組もうとしている。		

【色別班名簿】

赤組	班番号	6年	5年	4年	3年	2年	1年
んじ	1	◎◎	▲▲	□□	●●	△△	◆◆
	2	◎◎	▲▲	□□	●●	△△	◆◆
	3	◎◎	▲▲	□□	●●	△△	◆◆
	4	◎◎	▲▲	□□	●●	△△	◆◆

【班ごとの記録】

班番号	特記事項
1	公園に向かうとき、6年生の◎◎が1年生の◆◆の歩く速さに合わせて歩いていた。帰りは疲れた◆◆のリュックを途中から持ってあげる優しさを見た。
2	リーダーの◎◎だけでなく、5年生の▲▲が副リーダーとして集合や整列、6年生からの指示を聞く場面で、よく声をかけ、リーダーを助けていた。
3	最後のゴミ拾いの場面で、班で協力してゴミを拾う姿が見られた。特に4年生の□□、3年生の●●が黙々と活動していた。
4	オリエンテーリングの際、班長の周りに下級生が集まり、顔を寄せ合って地図を見ながら活動する姿が見られた。6年生の◎◎も自信をもって取り組んでいた。

学校行事の活動形態によっては学級担任以外の教師が評価を担当する場合も考えられる。その際は、活動の記録が簡単に書き込めるような記録用紙に、学校行事を通して育成を目指す資質・能力を念頭に置きながら、児童の活動を見取り記入していく。

記入した用紙は、いつでも確認できるように、ファイルに綴じ職員室等に保管しておく工夫も考えられる。

### 学校行事評価補助簿

学期	学校行事の内容	1学期												備考	
		遠			全			運			プ				終
行事名	遊	全	運	プ	終	遊	全	運	プ	終	遊	全	運	プ	終
【1学期】	遊	全	運	プ	終	遊	全	運	プ	終	遊	全	運	プ	終
評価の観点 (○…重点観点)	知	思	態	知	思	態	知	思	態	知	思	態	知	思	態
1	●●●●	○					○	○	○				○		
2	△△△△	○					○	○		○					

評価は、学校行事の中から特に重点を置いて評価する行事をあらかじめ決め、観点を絞るとともに、一年間を通して継続して評価を積み重ねていく。

### 【留意事項】

- ・学校行事においては、学校教育目標との関連や活動を通して育む資質・能力を明らかにし、学校行事の教育的効果を高められるようにする。
- ・各学校行事においては、児童が主体的に行事に参加できるように、児童会活動との関連を図り、自主的、実践的な活動が助長されるようにする。
- ・勤労生産・奉仕的行事においても、学校応援団等や地域の方と一緒に清掃活動を行うなど、本活動の他にも多様な連携が考えられる。
- ・入学式や卒業式などにおいては、その意義を踏まえ、国旗を掲揚するとともに、国歌を斉唱するよう指導する。

特別活動